避難区域内の常磐線 再開へ

広野―竜田間 試運転始まる

東日本大震災と福島第一原発事故により不通となっている福島県沿岸部のJR常磐線について、JR東日本は10日午前、避難指示解除準備区域内にある広野駅（広野町）―竜田駅（楢葉町）間で試運転を始めた。全町避難状態の楢葉町は5月下旬に避難指示解除の時期を決める方針で、同社はその判断を受けて運行再開の時期を示すとしている。

この区間は8・5キロで、途中に木戸駅がある。昨年8月から、地震で崩れたのり面などの復旧工事がされてきたが、今月上旬までにほぼ完了した。関係者によると再開後は1日9往復の運転を予定しているというが、JR水戸支社広報室は取材に「現時点で運行状況は未定」と話した。

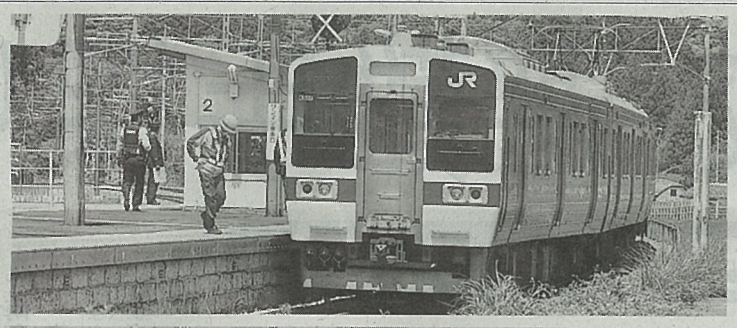
朝日新聞　5/11　朝刊

日新聞　第3種郵便物認可

常磐線 広野―竜田間で試運転

町帰還へ 住民ら歓迎

JR東日本は10日、震災と原発事故後は運転が止まっているJR常磐線の広野（広野町）―竜田駅（楢葉町）間で試運転を始めた。関係者によると、6月1日の運行再開に向け調整中だという。楢葉町は近く避難指示解除の時期を決める予定で、町の帰還の後押しとなることが期待される。



JR竜田駅のホームに停車した試運転の車両＝楢葉町井出

JRいわき駅前で運行再開に反対し、街宣活動を行う人びと＝いわき市平田町

JR社員「拙速」の声も

「まもなく、電車が参ります」。午前11時半、竜田駅のホームにアナウンスが響くと、試運転の車両は警笛を鳴らして構内に入った。ホームでは同社の作業員が、線路や車両の周囲を入念に調べていた。

JR東日本水戸支社によると、昨夏から取り組んだレール交換やのり面修繕などが済み、点検をかねて試運転に踏み切った。踏切や信号の動作状況を確認しつつ、8・5キロの区間を約30分かけて走行。計3往復し、異状は見られなかった。原子力規制委員会の関係者も同乗したという。

区間の6割は楢葉町を通る。町は今月下旬に帰還の時期を決めるとしており、JRはその判断を受けて再開を正式に決める方針だ。水戸支社の担当者は運行再開が実現すれば「復興の一助になる」と話す。

関係者によると、JRは労組に6月1日の再開を通告、1日9往復の運転を予定しているという。水戸支社広報室は取材に「現時点で運行計画は未定」と述べるにとどめた。

11日以降も、乗務員の訓練をかねて同じ区間を列車が走る予定だ。

住民も交通インフラ復旧の前進を歓迎する。いわき市の仮設住宅に避難する菜花久美子さん(72)は自宅が竜田駅近くにあり、買い物などに長年利用してきた。復旧は「やっぱりうれしいね」と笑顔を見せた。

ただ、「運行再開は拙速」との意見もある。JRの社員で組織する労働組合「動労水戸」などは「乗務員や乗客の安全が確保できていない」とし、抗議集会を、この日午後にJRいわき駅前で開いた。

県内出身の石井真一委員長(53)は取材に「緊急時の訓練もできておらず、利用者もどれだけいるのか分からない」と話す。